

取扱説明書



マキロン エンジン式チップパー MCE-65



ご使用前に、必ず取扱説明書をお読みになり
内容をご理解の上、お使い下さい。

株式会社ケイ・エス・エンタープライズ

2025年2月版

目 次	ページ
はじめに	1
安全上のご注意	
製品を長くお使いいただくために	
安全にお使いいただくために	2-5
エンジン式チップパーに係る安全事項	
エンジン式チップパーの作業に係る安全事項	
トラックへの積み降ろしのしかた	
主要諸元	6
各部の名称	7
運転操作の仕方	
1. 運転前の点検	8
①燃料の点検	
②エアクリーナーの点検	
③エンジンオイルの点検	
④各部締め付けネジの点検	
⑤各部の清掃・点検	
⑥燃料もれ・油もれの点検	
⑦潤滑油やグリスの塗布	
⑧タイヤの点検	
2. エンジン始動	9
エンジン始動方法	
エンジンの止め方	
3. 粉砕作業の開始	10
4. 緊急ボタン	11
分解作業	12
5. 点検・交換・注油のしかた	13-14
①ガソリンタンクの点検・給油	
②エンジンオイルの点検・交換	
③点火プラグの点検	
④エアークリーナーの点検	
⑤グリスアップ	
6. 回転刃・固定刃の交換	15-16
7. ベルトの交換	17
8. メンテナンス・清掃	18
9. 保管	18
①短期保管 ②長期保管	
10. トラブルシューティング	19
同梱品	19
消耗品一覧	19
ご相談、ご意見、お問合せ	20

はじめに

この度はマキロン エンジン式チッパーMCE-65 をご購入ありがとうございます。
安全にお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。
誤った使い方をされますと重大な事故につながる恐れがございます。
この取扱説明書を熟読しご理解の上、ご使用ください。
この取扱説明書はいつでもご覧いただけるように大切に保管してください。
各ページ記載の警告・注意事項を必ずお読みください。

安全上のご注意

お使いになる人や他人への危害・財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。
誤った取り扱いをした場合に生ずる危険とその程度をマークで記載して説明しています。
表示と意味をよく理解してから、本文をお読みください。



警告 避けられない死亡事故か重傷事故をもたらす可能性のある潜在的に危険な事項を示します。



注意 避けられないケガ・事故・物的損害をもたらす可能性のある潜在的に危険な事項を示します。



禁止 取扱においてその行為を禁止します。



指示 指示に基づく行為を強制します。

製品を長くお使いいただくために

取扱説明書に従った正しい取扱や定期点検、保守を行ってください。
注意事項に従わず何らかの損害・故障が発生した場合、保証の対象外となりますのでご注意ください。

安全にお使いいただくために

エンジン式チップパーMCE-65に係る安全事項

警 告



- ・燃料の臭いがする場合、運転しないでください。爆発の危険があります。
- 禁止** ・エンジンの排気ガスには人体に有毒な成分が含まれています。排気ガスを吸い込まないようにご注意ください。特に屋内、倉庫内など換気の悪い場所では絶対に使用しないでください。
- ・エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- ・燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- ・運転時、給油時、喫煙など火気を発生させないでください。
- ・可動している部分の近くに手又は足を入れないでください。
- ・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。
- ・改造、分解は絶対行わないでください。安全性・信頼性が低下したり故障の原因になります。当社の保障サービスは一切受けられなくなります。
- ・正しい操作を知らない人、子供、妊娠中の方には操作させないでください。
- ・未成年者の単独使用は禁止です。監督下で作業してください。
- ・成年者でも、操作の仕方がよく分からない場合は、独自の使用をしないでください。



- ・自動車で運搬する時は、燃料タンクの燃料を抜き、燃料供給レバーを閉じてください。
- 指示** 振動等により燃料が漏れることがあります。
- ・給油時は、付近にタバコ等の火気の無いことを確認してください。
燃料は非常に引火しやすく、気化した燃料は爆発の危険があります。
- ・給油中にこぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。
燃料を拭いた布等は、火災に注意して処分してください。
- ・燃料を衣服にこぼした場合、直ちに衣服を着替えてください。衣服へ引火する危険があります。
- ・給油は、身体に帯電した静電気を除去してから行ってください。引火の恐れがあります。
- ・給油時、燃料タンクの給油限界位置を超えないようにしてください。
温度上昇によって燃料が膨張し漏れることがあります。
- ・ガソリンタンクのキャップは確実に閉めてください。運転中にこぼれると引火の恐れがあります。
- ・運転前に燃料漏れがないか点検・確認してください。
- ・ガソリンスタンドで直接エンジンに燃料を投入しないでください。
- ・静電気にご注意ください。燃料を投入する場合は指定のガソリンタンクを使用してください。
屋外にて燃料の給油を行ってください。
- ・運転中に点火プラグキャップに触れないでください。感電する恐れがあります。
- ・使用中に異常音、異常振動があった時は、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。
- ・停止中でも直接刃物に触れないでください。ケガをすることがあります。
- ・点検整備を行う場合はエンジンスイッチをオフにして、エンジンを停止してください。
- ・点検整備はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン本体やマフラーの一部の他点火プラグの温度も高くなっており、火傷の恐れがあります。
エンジンが不意に始動すると、思わぬ事故につながる恐れがあります。

- ・始動前点検を実施してください。
- ・急傾斜地では使用しないでください。

エンジン式チップパーMCE-65の作業前の安全事項



注 意



禁止 ・指定された用途以外には使用しないでください。



指示 ・燃料はレギュラーガソリンを使ってください。

- ・長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。
- ・給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。
- ・定期点検整備を行ってください。
- ・本機の積み下ろしは、平坦な場所で丈夫なブリッジを確実にかけて二人以上で慎重に行ってください。

エンジン式チップパーMCE-65の作業に係る安全事項



警 告



禁止 ・機械の回転部分は危険です。特にホッパー及び排出口内は危険ですので、運転中は手足及び体の一部を入れないでください。

- ・運転中はホッパー、排出口をのぞき込まないで下さい。
- ・金属、石、およびそれに類似するものは機械内に入れないで下さい。
- ・他の人が作業区域内に入ると重大な事故が起こることがあります。
作業中は、他の人が作業区域に入らないようにしてください。
- ・暗い場所での作業は危険ですので、視界の悪い場所などでは使用しないで下さい。
- ・足元が滑りやすい、転倒しやすい場所では使用しないでください。
- ・使用中に異常は発生した場合は、速やかにエンジンを停止し、異常原因を調べてください。
損傷があった場合には、完全に補修した後でなければ本機を再始動しないでください。



指示 ・機械の回転部に巻き込まれない服装、滑りにくい安全靴、ヘルメットなどの防護類を使用してください。

- ・作業中に石等の異物が飛び散る可能性がありますので、目のケガを防止するため、必ず保護メガネを装着してください。
- ・耳の保護具、皮手袋を装着して作業をして下さい。
- ・本機から離れるときは、必ずエンジンを停止してください。
- ・危険を感じたり、予測される場合も、必ずエンジンをすぐに停止してください。
- ・ご使用前には各部ボルト・ナット類がすべて締まっているかどうか確認をしてください。
- ・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。
触れるとやけどすることがありますので注意してください。
- ・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジン

停止して点検・修理してください。

・カバーなどは本機が十分冷めてからかけてください。

・本機を長時間保管する時は、取扱説明書にしたがって保管してください。

トラックへの積み降ろしのしかた



警告

- ① トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所をえらんでください。
- ② トラックは動き出さないようにエンジンを止め、ギアをバックに入れ、サイドブレーキを引き、タイヤに車止めをしてください。
- ③ ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう、また外れないように確実に掛けてください。
- ④ 本機の左右のタイヤがそれぞれブリッジの中央に位置するようにして積み降ろしを行ってください。
- ⑤ 本機のスタンドがブリッジと接触しないように注意してください。スタンドがブリッジの溝に絡み転倒する恐れがあります。
- ⑥ トラックに積んで移動する時には、十分に強度のあるロープで本機を確実に固定し、さらに荷台の上で動かないよう「車止め」を掛けるようにしてください。



＜積み降ろしの仕方＞

- ① 周囲に危険物のない、平坦な場所を選んでください。
 - ② 基準に合ったブリッジを使用してください。
 - ③ 積み下ろし作業は、一人で行うと危険です。二人以上でバランスを保ちながら行ってください。
- ※本機にはブレーキが付いていません。

※ブリッジ基準

- ・長さ：トラック荷台の高さの3.5倍以上あるもの
- ・幅：本機の車輪幅にあったもの
- ・強度：本機重量、および作業者の体重の総和に十分に耐えるもの
- ・スリップしないように表面処理されているもの

本機の移動の仕方

- ① ホッパーのハンドル部分を持ち、スタンドを浮かします。
 - ② スタンドを浮かしながら、2輪のタイヤで移動させます。
この時バランスに注意してください。
 - ③ 移動は平坦な場所で行ってください。
- ※本機にはブレーキが付いていません。



主要諸元

型 式	MCE-65
全長×全幅×全高	1,820mm × 740mm × 1,070mm
重 量	95kg
最大粉碎能力	直径65mm
処理能力	雑木5.4m³を約5分で0.2m³に減容化
刃	回転刃2枚、固定刃1枚
機構	ベルトテンション方式
エンジン型式	ガソリンエンジン
最大出力	6.5HP
燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量(ℓ)	3.1 ℓ
エンジンオイル量(ℓ)	0.6 ℓ
始動方式	リコイルスターター
排出方式	ホッパー排出
タイヤタイプ	チューブレスタイヤ
タイヤサイズ	13 × 5.00-6 (空気圧: 2.1KPa) 2PR

※樹木の種類によります

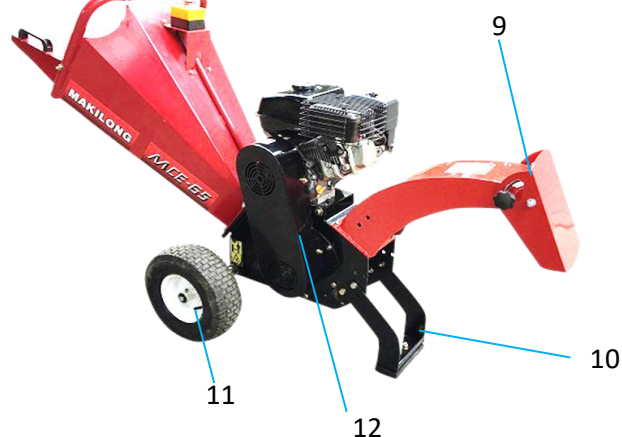
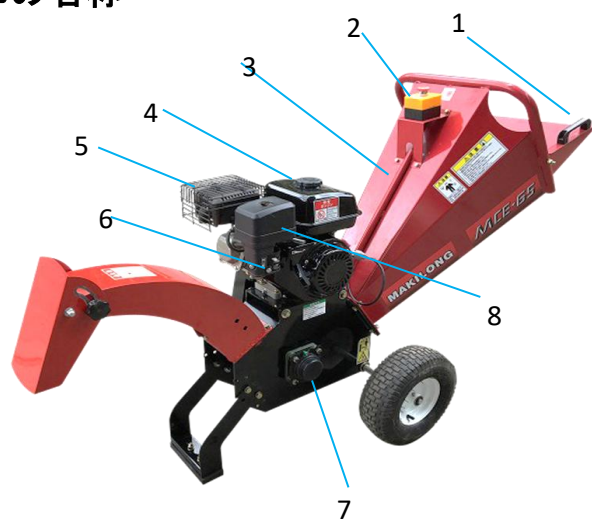
※推奨エンジンオイル: 10W-30

サイズ (単位:mm)



※ 製品の仕様・外観は改良の為予告なく変更することがあります。
予めご了承下さい。

各部の名称



- ① ハンドル
- ② 緊急ボタン
- ③ ホッパー
- ④ ガソリンタンク
- ⑤ マフラー
- ⑥ エンジン
- ⑦ 駆動軸
- ⑧ エアクリナー

- ⑨ 排出口
- ⑩ スタンド
- ⑪ 車輪
- ⑫ ベルトカバー



アクセルレバー

スタートスイッチ

リコイルレバー

燃料コックレバー

チョークレバー

運転操作の仕方

1. 運転前の点検（運転前には必ず点検してください）

①燃料の点検（P.13 参照）

- ・燃料の量を点検します。（出荷時は入っていません）
- ・燃料は、レギュラーガソリンを使用してください。
- ・古いガソリンは使用しないでください。
- ・燃料タンクに注入する時は、あふれさせないようにしてください。（上部に2～3cm空間を開けてください。）



注意



禁止

- ・ガソリンは、火気により引火・爆発の危険があります。火気には十分注意をしてください。
- ・燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。

②エアクリーナーの点検（P.14 参照）

- ・エアクリーナーフィルターが汚れてはいませんか？

③エンジンオイルの点検（P.12参照）

注意: エンジンオイルが充填されてない状態で始動しますとエンジンの破損・故障の要因になります。

- ・エンジンオイルは規定量入っていますか？（本機のオイルは0.6ℓです）
- ・エンジンオイルは汚れていませんか？
- ・オイルが少なかったり、汚れていた場合は新しいエンジンオイルに交換してください。
- ・エンジンオイルは、10W-30が標準です。

④各部締め付けネジの点検

- ・各部のネジは締まっていますか？

⑤各部の清掃・点検

- ・マフラーやエンジン部の周辺に、木の切りくず、草や葉及び可燃物など等が付着していませんか？
- ・リコイルスターターの空気取り入れ口の周りに草や葉及び可燃物等が付着していませんか？
- ・ゴミ等が付着している場合は、必ず取り去ってから運転してください。

⑥燃料もれ・油もれの点検

- ・燃料もれや油もれはありませんか？異常のあった場合は整備を行った後ご使用ください。

⑦潤滑油やグリスの塗布

- ・可動部部分には、使用前に潤滑油やグリスを塗布する習慣をつけましょう。

⑧タイヤの点検

- ・タイヤの空気圧は問題ないですか。
- ・目視にて破損や亀裂が無いか確認します。破損や亀裂があれば修理、交換してください。

2. エンジン始動



指示



<エンジン始動前に必ず下記の動作を行って下さい>

- ①エンジンを始動前に、ホッパーが空になっているのを確認してください。
ホッパーに残留物がある場合は、エンジンがかからない場合があります。
また、残留物がある状態でエンジンを始動させようとすると、
刃がロックしリコイルスターターコードが止まりケガをする恐れがあります。
- ②エンジンの始動前に必ず緊急ボタンを右に1/4程度回し、解除されていることを
確認してください。(手を離すと自然に元の位置に戻ります)

- ①赤いスタートスイッチをONの位置にする。



- ②アクセルレバーをウサギ/カメの中間位置にする。



- ③燃料コックレバーを右の方向へスライドさせます。



- ④チョークレバーを左の方向へスライドさせます。



- ⑤リコイルレバーを引くとエンジンが始動します。



- ⑥エンジン始動後、チョークレバーを右の位置にして
作業を開始して下さい。



エンジンの止め方

アクセルレバーをカメの位置にする。



赤いスタートスイッチをOFFにする。



<緊急停止(緊急時)>

緊急ボタンを押す。



3. 粉碎作業の開始

- ①エンジン始動の手順でエンジンを始動する。
(P.9参照)
- ②アクセルレバーをウサギの位置にする。



- ③排出口の角度を、調整します。



- ④本機の横側に立ち、樹木をホッパーへ投入します。



チップできる樹木の最大径は65mmですが、
推奨処理径は50mm以下としています。
硬質材や軟質材や樹木の種類・状態にもよります。

【目安】

針葉樹	径65mm以下、長さ1m以下
広葉樹	径50mm以下、長さ2m以下
	又は径30mm、長さ3m以下
真竹	径50mm以下、長さ3m以下

1m以上の長さの樹木を投入する時は、機械が
バランスを崩さないように、手でホッパーの取手
を持ちながら作業してください。



径50mm以上の樹木を粉碎する時は、エンジンがストップ
しないよう、手で投入を調整(抜き差し)しながら行ってくだ
さい。



作業終了時

エンジンの止め方(P.9)の要領でエンジンを止める。
**この時、ホッパー内部に樹木が残っていないか確認して
エンジンを止める。**

4. 緊急ボタン



緊急ボタンは、緊急時の停止で使⽤します。

指示 通常作業でエンジンを止めるときには使⽤しないでください。

緊急ボタンを使⽤して機械をストップした場合は
必ず緊急ボタンを右に1/4程度回し解除して下さい。
(手を放すと自然に元の位置に戻ります。)



緊急停止後の再スタート方法

①緊急ボタンを右に1/4程度回して解除してください。

②P.15の①～②の手順を参考にホッパー内部・排出口に残留物がないか確認してください。



ホッパー内部



排出口

・残留物がある場合は、ホッパー部 又は排出口を取外し残留物を取り除いてください。

③P.15の③の手順を参考にブレード付ホイール部(回転刃部)が回転するか確認してください。



- ・ホイールを回転させるには、ベルトを手動で回転させます。
- ・回転しない場合は、残留物がある可能性があります。
どうしても取れない場合は、分解が必要となります。
- ・回転する場合は取り外した部品(ホッパーとベルトカバー)を元にもどし、エンジンスタートしてください。



残留物がある場合はエンジンがかからない場合があります。

注意 又はエンジンはかかるが、ベルトが滑り、煙が出ることがあります。その場合、ブレード/回転部が内部でロックしている可能性があり、分解して残留物を取り除く作業が必要になります。

分解作業

【 取り外す部品 】



①排出口の取外し



③ベルトの取外し



⑥ベアリングの取外し



④ベルトパネルの取外し



⑦ブレード付ホイールの取外し



※ベルト側から外します。

②ベルトカバーの取外し



⑤ベアリングカバーの取外し



5. 点検・注油のしかた

①ガソリンタンクの点検・給油



燃料キャップを外し、燃料を確認して下さい。

燃料はレギュラーガソリンを入れて下さい。(燃料タンク容量は3.1ℓ)

燃料を入れ終わったら燃料キャップをしっかりと締めてください。

②エンジンオイルの点検・交換



給油栓についているレベルゲージでエンジンオイルの質・量を毎回作業前に点検してください。

常にレベルゲージの上限までエンジンオイルは入れておいてください。

※エンジンオイルの給油栓は2箇所ありますが、どちらからでも給油が可能です

＜交換＞

- ・本機を水平な場所に移動させ、エンジンが水平になるように調整してください。
- ・オイルを受け取る適当な容器を用意し、オイル給油栓を外した後、エンジン下部のドレンプラグを工具を使って外してください。
- ・エンジンオイルを抜き終わったら元通りにドレンプラグをしっかりと締めつけてください。
- ・エンジンオイルを給油口より給油してください。(エンジンオイル10W-30 量は0.6ℓ)
- ・エンジンオイル給油後、オイルがにじみ出ないように、給油栓をしっかりと締め付けてください。

③点火プラグの点検

点火プラグキャップを外します



プラグレンチで点火プラグを外します



点火プラグキャップ



電極

点火プラグの電極部分をワイヤブラシで掃除します。陶器部分にひび割れ、また電極部分に消耗が認められる場合には点火プラグを新品と交換してください。

⑤エアークリーナーの点検

エアクリーナーカバーを固定しているネジを外して、エアクリーナーフィルターを取り出し灯油で掃除します。



エアクリーナーカバー

⑥グリスアップ

駆動軸ベアリング部 × 2

グリスガンを使用し2～4回注入してください。



※右側はベルトカバーを外してください。

6. 回転刃・固定刃の交換

回転刃の交換



指示

回転刃、固定刃の交換作業は
必ず**作業手袋**を装着してください。

①緊急停止ボタン用の回線カプラを取り外します。



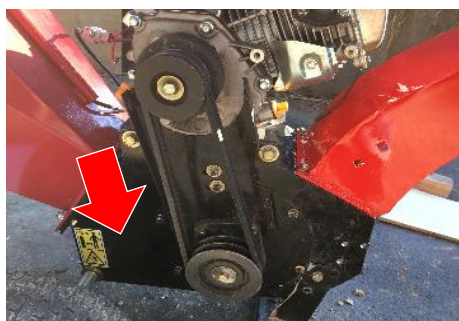
②ホッパー部を取り外します。



ホッパー取付ボルト、ナット4本を取り外します。

※重量がありますので、安全の為に必ず
2人以上で作業を行ってください。

③ベルトカバーを外し、ベルトを掴んで回します。



④ベルトを回すとホイールが回転し、回転刃が手前に
来ますので作業しやすい位置まで持ってきます。



④六角レンチを使用し、ボルト3本を外してください。



※ボルトが緩みにくい場合は上写真の様に
パイプを利用すると簡単に緩みます。

【作業工具(ラチェットレンチ)】



※ボルトを外す際、中にボルトを落とさない
様、十分に注意して作業してください。



⑤逆の手順で回転刃を取り付けます。

回転刃のボルトの締付けは、十分に行ってください。

回転中外れると、大変危険です。

機械が損傷することがあります。

⑥回転刃と固定刃の隙間はスケールなどを使って
1mmに固定してください。



固定刃の交換

- ①本体フレームの底側にボルト3本、ロックナット3本があります。



- ②ホッパーを取り外します。



- ③ロックナットを緩め、ボルト3本も緩めてください。



- ④固定刃を取り外します。



- ④逆の手順で固定刃を取り付けます。



- ⑤固定刃調整ボルトで固定刃と回転刃のすきまを1mmに調整してください。

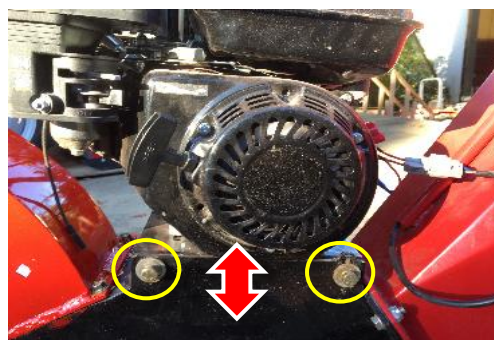


7. ベルトの交換

①ベルトカバーを取り外す



②エンジンマウントステー取付ボルト4本を緩めます。



ボルトを緩めると、エンジンの位置が上下に動きます。

③写真のようにドライバー等を差し込みながら、プーリーを回転させると容易に外れます。



④逆の手順でベルトを取付します。



⑤エンジンマウントステーを上下しながら、ベルトの張りのたわみが10mmになるように調整します。



⑥ベルト張り調整後、エンジンマウントステー取付ボルトをしっかり締めます。

⑦最後に、ベルトカバーを取り付けます。

8. メンテナンス・清掃

- ・新品の機械を使用する際には、アイドルリング（アクセルレバーを亀マーク位置）で十分にエンジンを温めてください。
- ・本機の使用後、必ずブラシ等で木の切りくず等を払い落してください。
エンジン部に付着している場合は、エンジンが冷めたことを確認してからふき取ってください。
- ・水洗いはしないでください。

9. 保管

①短期保管

- ・各作業終了後、本機を清掃し、燃料コックレバーを右の位置にしてください。
- ・誤始動を避けるため、点火プラグのカプラーを取り外してください。
- ・保管場所は、可燃物が近くになく、火の元から遠ざけてください。
- ・各部品にゆرمみや破損がないか確認し、問題があればすぐに解決してください。
- ・本機を平坦で乾燥した地面、低温、換気の良い場所で保管してください。

②長期保管

- ・平坦な乾いた地面の上で本機を安定させて保管してください。
- ・ガソリンタンク、キャブレターの燃料を抜きます。
- ・エンジンをかけ、燃料切れで停止するまで放置し、燃料を使い切ります。
(ガソリンタンク内の防錆作業を行えます。)
- ・湿気やホコリが少なく、子供の手が届かない場所に保管してください。
- ・ホッパーや排出口は、ビニールなどで覆い、小動物等が入り込まないようにしてください。

10.トラブルシューティング

現 象	原 因	処 置
エンジンがかからない 又はすぐに止まる	緊急ボタンが解除されていない	緊急ボタンを右に回し解除する
	エンジンスイッチがONになってない	エンジンスイッチをON
	燃料コックが閉じている	燃料コックを開けるの位置にする
	点火プラグキャップがはまってない	点火プラグキャップをしっかりとめる
	点火プラグが燃料で濡れている	点火プラグを外し、リコイルレバーを5, 6回引いて点火プラグを取り付ける
	点火プラグの不調	点火プラグを掃除又は交換する
	燃料が入っていない	燃料を補充する
	エアクリーナが汚れている	エアクリーナーエレメントを掃除する
エンジンがスムーズに 作動しない	チョークレバーを引いてない	チョークレバーを締めるの位置にする
	エアクリーナが汚れている	エアクリーナーエレメントを掃除する
	燃料が古く劣化している	燃料タンクを空にし新しい燃料を入れる
エンジンの回転数が 上がらない	回転部、又は排出口に木の残留物が 挟まっている	ホッパー部、排出口の部品を外して点 検、清掃する。
ベルトがスリップする	ベルト張力が低い	ベルト張力を調整する
	ベルトの摩耗	新しいベルトに交換する
本機から異音がする	損傷した部品がある。またはボルトの 緩みがある。	全ての部品の状態を点検、各ボルトの締 付けをする。 損傷部品があれば交換する
チップ状の物が排出口から 出てこない	排出口、又はホッパー口に木の残留物 がある	エンジンを停止させ、詰まりがないか点 検する。手前から取れない場合は排出口 またはホッパー部を取り外し清掃する

同梱品

名 称	個数
保護メガネ	1
皮手袋	1
耳当て	1
収集バック	1
プラグレンチ	1

消耗品一覧

	品名	数量
①	回転刃	2枚
②	固定刃	1枚
③	Vベルト	2本

オイル関係

品名	規格・適用	数量
エンジンオイル	10W-30	0.6 ℓ

～メモ～

ご意見、お問合せ

本機についてのご意見やお問合せがございましたら、下記の所までご連絡ください。

株式会社 ケイ・エス・エンタープライズ

整備センター 〒518-1152 三重県伊賀市予野1534

事務所 〒604-8841 京都市中京区壬生東土居ノ内町17番地5

TEL 0120-611-567

E-mail info@chuko-noki.com